



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。

## 基盤的能力と専門的能力を培って楽しい大学生活を！

教学担当理事・副学長 岡野幸雄

去る3月11日の東日本大震災では多くの方々が犠牲になられ、被災された方々には改めてお見舞い申し上げます。日本はその後原発問題も加わり、大変な局面を迎えましたが、この災難から立ち上がる必要があります。

実は、大学教育も難しい時期に来ていると思います。グローバル化する知識基盤社会においては、国際的通用性を備えた人材の育成が必要です。少子化による人口減少が進むなかで、18歳人口の半数が大学へ進学するような高等教育のユニバーサル化もおこっています。イノベーション(革新)を創出できる優れた人材を高等教育で育成する必要があり、そのような優れた人材を社会に送り出すために、大学教育の質の保証も問われるようになりました。学問の基本的な知識を獲得するだけでなく、知識の活用能力や創造性、生涯を通じて学び続ける基礎的な能力を培うことが重視されています。このような力は、文部科学省では学士力と呼ばれ、経済産業省では社会人基礎力と呼ばれて、その育成が社会的にも要請されています。

岐阜大学は、「学び、究め、貢献する」地域に根ざした大学を目指して、人材育成を最優先課題としています。このような理念のもとに、平成22～27年度の法人化第2期中期目標に基盤的能力や専門的能力を明らかにしてこのような力を育成していくことを掲げています。

基盤的能力は、「考える力」「伝える力」「進める力」の3つの力からなり、それぞれをさらに3つに分けた9つの要素からなります。「考える力」は総合的判断力であり、課題発見力、創造的思考力、論理的思考力に分けられます。「伝える力」はコミュニケーション力であり、発信力、傾聴力、状況把握力に分けられます。「進める力」は自立的行動力であり、実行力、計画力、管理力からなります。これら3つの力を培うことにより、各学部の教育目標に掲げている「豊かな人間性」の形成が促進されることを期待しています。

しかし、基盤的能力を培うための特別な授業があるわけではありません。日頃のいろいろな正課の授業の中や、サークルなど課外活動でこれらの力を養うことができます。卒業までに基盤的能力を培い、専門分野の知識・技能を蓄えて専門的能力も養い、岐阜大学の卒業生として立派に巣立って行って下さい。卒業後に社会の荒波に揉まれても、これらの力を蓄えた皆さんはきっと逞しく生きて行くことができるでしょう。

しかし、基盤的能力を培うための特別な授業があるわけではありません。日頃のいろいろな正課の授業の中や、サークルなど課外活動でこれらの力を養うことができます。卒業までに基盤的能力を培い、専門分野の知識・技能を蓄えて専門的能力も養い、岐阜大学の卒業生として立派に巣立って行って下さい。卒業後に社会の荒波に揉まれても、これらの力を蓄えた皆さんはきっと逞しく生きて行くことができるでしょう。

岐阜大学での4年間あるいは6年間の学生生活があなたの人生でもっとも有意義な一時期であったと言えるように、岐阜大学を卒業できてよかったと言えるように、学生生活を楽しんで下さい。



## 知ること、考えること、できること

教育学部副学部長 原田憲一

大学は高度な専門的能力を持って社会で活躍できる人材を養成するところです。少し堅苦しく感じますが、学生から見れば、やはり大学は学ぶところです。学ぶ内容は体系化された学問、知識や技術です。数学や歴史或いはそれぞれの専門的な枠組みのなかで体系化され社会で認められたものです。だから社会で共有でき、それを行行使することによって社会に還元できることに繋がります。

知らないことを知るとはとても楽しいことです。子どもが未知の世界への冒険に憧れることと同じで、とても興味深いことです。時空を超えた人類が残し社会が承認している学問を知ること、本を読むこと、人の話を聞くこと、人と一緒に活動することです。知ることは重要で、文献や資料、現実の社会や最近のインターネット等もあり、出典は豊かです。文献をそのまま写したり引用したりする人もいますが、その知識がそのまま活用できるのかと疑問が残ります。自分自身で考えず納得していないことを人に話しても、とてもその人自身を信用することは出来ません。

思うこと、考えることはとても重要です。なるほどそうだったのかと納得すること、どうしてそうなのかと疑問に思うこと、さらに予想やひらめき等、自分で考えることはとても重要です。自分自身で確かめたり、応用したりして本当のことと確信します。その欲求の充足はとても愉快的なことです。しかし自分で考えると言っても、知識や定理を知らないで、独りよがりでも考えても社会に通用するとは思えません。

そういうことが面倒で苦しく感じたり、目先のちょっとした努力を惜しみがちになったりすることもあります。それを容易にする方法があります。それは言葉や概念という必要な道具をしっかりと持つことです。もう一つは、それぞれの関心や内容が、我々人間や世界の中でどのような位置に存在し、どのような関係になっているかを知ることです。それらを持っているとすごく容易になります。

教育には人間性と有能性を高めることだわれています。豊かな人間性でも、何もできなければ社会に出てもあまり役に立ちません。反対に有能であっても、周りの人たちに受け入れられないような人間性では、仲間として一緒に活動することができません。

本学では基盤的能力と専門的能力という枠組みで考えています。基盤的能力は教養で、専門的能力が学部の専門ということではありません。基盤的能力は人間が備えていたい基本的な力を指しています。それだけを取り出して発揮するのは難しく、内容がなければ発現できないのが現実です。その基盤的能力をもとに専門的な知識や技能で発揮できるようになりたいものです。

## 編集後記

今年は夏休みの間に台風が日本に大きな影響を与えました。なかでも12号と15号は日本列島に大きな爪痕を残して去って行ったのは記憶に新しいところです。二つの台風の特徴は発生してから消滅するまでの寿命が長かったこと、9月に入っても夏台風特有の迷走ぶりがぎわめて顕著であったことだと思います。これは、日本近海の水温や偏西風の影響が大きかったことが一因であると報道されています。私たちはこのことをどのように考え、この経験を今後どのように伝え、活かしていくことができるのか、自然からいただいた課題を享受したいものです。今号は、全学共通教育に大所高所から支援いただいているお二人の先生から学生の皆さんにメッセージ(基盤的能力・専門的能力とは何か)をいただきました。何度も読んで味わってください。 教養教育推進センター副センター長 竹内豊英

